

北海学園大学 学生会員 東 本 靖 史*
 北海学園大学 フェロー 五十嵐日出夫**

1. はじめに

我が国の遺跡や文化の様子が一定程度系統的に判明するのは、今から約3万年前ころの無土器時代か、あるいは先縄文時代と呼ばれる時代に入ってからである。たとえば、黒曜石の剥片からできたナイフ形石器や、剥片尖頭器で代表される文化はこれである。

これらの石器は日本各地で発掘されているが、場所によっては数百kmも離れた産地の石を使用している例もある。また、今から1万年前になると土器の使用がはじまり、日本各地で多種多様な形式の土器が発生して文化や流行として全国に流れ出た。

このようなことから先史の時代から広い範囲にわたる物資や文化の交流があったと推定できるし、これを運送する交通網らしきものが存在したのではと考えられる。

2. 本研究の概要

古代宮都の遺跡より現代に至る政庁の所在地点に関する歴史地理学的研究によって五十嵐日出夫が提唱した、「土木施設等の構造は変わっても機能は容易には変わらない」という『歴史的慣性の法則』がある。筆者らはこれを先史時代にまで敷衍して、北海道、東北地方、中部地方、関東地方における主要道路網配置と先史時代の遺跡分布との関係について考察を試みた。

3. 全国市町村別埋蔵文化財包蔵地数

現在、日本には3,234の市町村があり、その中で市と郡は1,222ある。ここではそれらの市町村に埋蔵されている、住居跡や貝塚などの遺跡、あるいは土器や石器などの遺物の数、すなわち包蔵地数を市部と郡部に区分して調査した。

包蔵地数のランク付けとしては北海道、東北地方3県(青森県、岩手県、山形県)、中部地方6県(新潟県、富山県、長野県、福井県、静岡県、愛知県)関東地方3県(茨城県、栃木県、神奈川県)の個々の市部と郡部における包蔵地数の比率が4%以下、6%以上、もしくは6%以下、8%以上の範囲でランク分けした。これは、包蔵地数の分布順位グラフが上記の比率において腰折れする傾向にあるからである。

この分析により、現在の主要都市といわれている都市には包蔵地数も多いと言えそうである。もちろん、主要都市ほど都市化が進んでいるため土地を開削する機会も多く遺跡が発見されやすいということもあろう。しかし、全くもって現在の人口と包蔵地数の関係を否定することはできないだろう。

4. 包蔵地数と主要道路網との重ね合わせ

4-1 遺跡分布と主要道路の特性

全国の遺跡分布の特徴としては、遺跡の包蔵地数は大河川の流域や海沿いの地域に多く分布している。これは先史時代の人々が狩猟や漁労などの行いやすい場所、交通の便利な場所に生活空間をもち集落を形成していたからである。

全国には現在高規格道路、一般国道、県道、道道などの様々な階級の道路が張り巡らされているが本研究では一般国道を主要道路と見なすことにする。

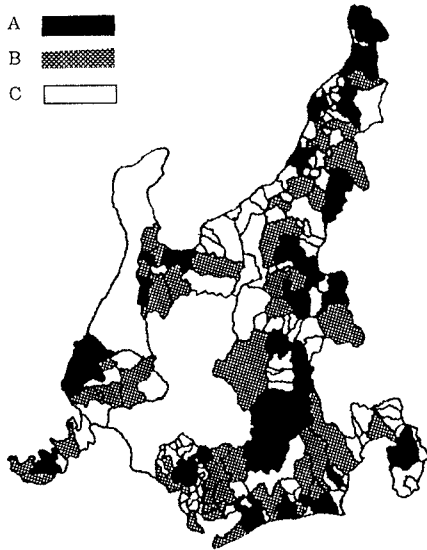
さて、現在の主要道網配置図を見ると主要都市間を結びつけているのが主要道路となっている。これは包蔵地数の多い地域間を、現在の主要道路が結びつけているのにほかならない。そこで遺跡分布図と主要道路網配置図を対比し、図—1、図—2で示す。

キーワード 歴史的慣性の法則、全国市町村別埋蔵文化財包蔵地数、主要道路網配置図

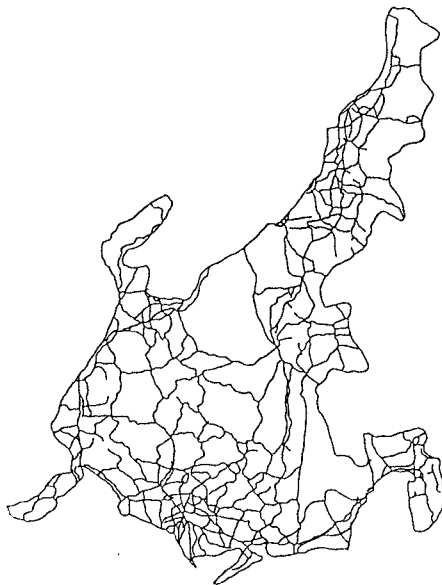
* 学生会員 修士 北海学園大学大学院工学研究科 〒064 北海道札幌市中央区南26条西11丁目 Tel. 011-841-1161 (内)774

** フェロー 工博 北海学園大学工学部土木工学科 〒064 北海道札幌市中央区南26条西11丁目 Tel. 011-841-1161 (内)858

4-2 中部地方の遺跡分布と主要道路網の比較



図一 中部地方の遺跡分布



図二 中部地方の一般国道

この両図を重ねると主要道路が走ってる地域には比較的に遺跡が多く発掘されている傾向があることが分かる。もし先史時代にも集落が孤立せず物資の運搬や狩猟の為の移動通路の確保が重要であったとするならば、形態の差こそあれ現在の主要都市を結ぶ主要道路と似たものであったと推定される。

5. 歴史的慣性の法則

大阪市の史跡難波宮跡には歴史の背景と共に様々な構造物が建てられてきた。

この難波長柄豊碓宮は、我が国において計画された最初の宮都であり、また後の天武天皇の難波宮、聖武天皇難波宮と同位置である。さらに700年ほど下って、大阪石山本願寺別院が設立されその周囲には約2,000軒以上の市街が展開される。

しかし天正8年(1580)、織田信長による石山合戦の戦火によりこの地は一度消滅してしまうが、天正11年(1583)には豊臣秀吉により再びこの地に壮大な大阪城が築造され繁華な市街地が出現した。

慶長19年(1614)、元和元年(1615)には大阪冬の陣、夏の陣と2回にわたる戦火によって完全に焦土と化するが、元和5年(1619)、徳川幕府はこの地が政治的、経済的枢要地であることから直轄領とし、大阪城代を置いて支配させた。

そして、現在は大阪府庁や建設省近畿地方建設局などが設置されている。すなわち大阪のこの地は、以後380年余を経過した今日においてもなお、我国関西第一の都市における枢要地として、政治機能を發揮していることは周知の事実である。

これはまさに、土木計画によって築造される施設の『構造』は変わっても『機能』は容易には変わらないこと、すなわち「形は変化しても働きは変わらない」という格好な実例と言いうる。

6. まとめ

本研究では、北海道、東北地方、中部地方、関東地方の主要道路網の原点を探るために市町村別埋蔵文化財包蔵地数を分析し、遺跡分布図と主要道路網の対比から、両者の関係を指摘してみた。

また、五十嵐日出夫が提唱した「歴史的慣性の法則」を歴史時代をさかのぼり先史時代まで敷衍し、道路の発生の経緯に適用した。

本研究の成果として現在の道路の路線位置は、その道路の設置目的、通行形態（利用交通手段）、時代的技術レベル等に制約され決定されているが、道路の発生や都市の発生の背景には「構造は変わっても機能は変化していない」という慣性力が先史の時代から働いているように推察された。